

第 4 回 経営協議会 議事要録

1 日 時 平成18年3月23日(木) 13時30分から15時05分

2 場 所 事務局第一会議室

3 議 題

(1) 平成18年度年度計画(案)について

黒田理事から、平成18年度年度計画(案)について、別紙議題1資料1・2により説明あった。

引き続き、財務部長から、予算、収支計画及び資金計画について、別紙議題1資料により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 国立大学法人徳島大学規則の一部を改正する規則(案)について

学長から、学部、大学院及び専攻科の設置及び改廃に伴う改正である旨説明の後、秘書課長から、別紙議題2資料により改正部分の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(3) 国立大学法人徳島大学会計規則の一部を改正する規則(案)について

学長から、国立大学法人への減損会計基準の導入に伴う改正である旨説明の後、財務部長から、別紙議題3資料により改正部分の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(4) 役員の給与改定について

学長から、役員の給与については、平成18年4月1日から3%の減額を実施する旨別紙議題4資料により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(5) 役員の期末特別手当及び退職手当の取扱いについて

中村理事から、役員の期末特別手当を100分の10の範囲内で増減する場合の評価要素及び増減を行った場合は経営協議会に報告する旨の規定を設けること並びに退職手当の支給額を増減する場合は経営協議会の議を経ることを明記したい旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(6) 平成18年度給与制度及び退職手当制度の改定について

中村理事から、平成18年度の給与制度及び退職手当制度の改定内容について、別紙議題6資料により説明があり、審議の結果、組合との交渉が調べば、平成18年4月1日より原案のとおり実施することが承認された。

4 報告事項

(1) 中期目標及び中期計画の変更申請について

黒田理事から、行政改革の重要方針を踏まえ、人件費削減の取組を行うこと並びに附属病院の施設・設備の整備を行うため、長期借入れに伴う担保を変更することに伴い、中期目標及び中期計画の変更申請を行った旨別紙報告1資料により報告があった。

(2) 平成17年度発明届出等件数（平成18年2月末現在）について

渋谷理事から、平成18年2月28日現在の特許出願件数、知的財産活用件数等について、別紙報告2資料により報告があった。

(3) 寄附金の受入状況について

財務部長から、寄附金の受入状況について別紙報告3資料により報告があった。

(4) 平成17年度企業等との連携状況（平成18年2月末現在）について

研究協力部長から、共同研究及び受託研究の学部別受入状況並びに相手先企業等の都道府県別・機関別内訳等について、別紙報告4資料により報告があった。

また、渋谷理事から、これからは運営費交付金に頼って研究する時代ではなく、研究費は自ら稼ぐという時代に入っていることが本資料に如実に現れているとの補足説明があった。

(5) 平成18年度内部監査計画（案）について

北島理事から、平成18年度内部監査の基本方針、監査対象等について、別紙報告5資料により報告があった。

5 その他

飯泉委員から、知的クラスター創成事業に関して次のような要請があった。

知的クラスター創成事業は、平成15年度からスタートして平成17年度が3年目となることから、文部科学省で中間評価が実施されたが、同時期にスタートした富山、名古屋に比べて大変厳しい評価を受けた。

指摘を受けたものは大きく2点あり、一つは知的クラスター本部のマネジメント機能が弱い。もっと強くするべきであるという指摘であった。この点については、商工労働部長と徳島産業振興機構の理事長を本部員に加え、特許アドバイザーの新設なども行った。また、徳島大学との人事交流も進めて、次年度に向けて徹底的に知的クラスター本部の機能強化を図っていこうとしている。

もう一点は、大学の関係で、特に大学研究者の意識の改革と横の連携強化という指摘を受けている。大学内部でも早速こうした指摘に対して、既に対応策を考え、また行いつつあるということも聴いているが、是非とも責任ある体制でしっかりと行っていただきたい。

特に研究開発については、進行管理の点、また評価体制、この2点が大きく指摘をされており、こうした点についてもしっかりとご留意をお願いしたい。

平成18年度の研究予算の配分は、上期下期二つに分けて、下期の予算については上期の評価をしっかりと行い、その結果に基づいて配分するという方式を考えている。

今回厳しい評価を受け、予算的にも厳しい数字が今後考えられるが、逆に言うところピンチをチャンスにとということで、もう一度体制を立て直し、後2年間で他の地域よりはやはり徳島の知的クラスターが一番だという評価を受けられるように一丸となって是非とも取り組んでいただきたいとの要請があった。

(以上)